（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 ４ 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立本庄高等学校　定時制課程）

n05

目指す学校像	生徒一人ひとりを大切にし、社会で活躍し人生を豊かに生きる生徒を育成する。

重点目標	
	1　「わかる授業」を実現する授業の工夫改善を進め、基礎学力の向上を図る。
	2　家庭との連携と生徒指導の充実を図り、基本的生活習慣の確立に努める。
	3　進路意識と社会で生きて働く人間性や社会性を育て、希望する進路を実現する。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	学習歴や習熟度、個々の特性や日本語活用能力等に著しい差があるため、一人一人を見つめ、個に応じた「わかる授業」を実践して、社会で活躍し人生を豊かに生きるための「基礎基本」を着実に身につけさせる必要がある。	「わかる授業」と「特性に応じた指導」の実践に取り組む。	①一人一人に対応した「わかる授業」実践と、共通して身につけるべき「基礎基本」事項を確実に習得するため、少人数授業や学習サポーターによる学習支援を進める。 ②教材を工夫し、また、プロジェクターやタブレットを活用し「わかり、引きつける」授業を行い、年間を通じての学習保障を行う。	①授業アンケート項目「授業の内容を理解できている」について肯定的回答が 80%を超えているか。 ②授業により、今まで興味がなかったことに興味を持って授業に取り組んだ生徒の割合が 80％を超えているか。				
		多様な生徒の状況に応じた有効な学習支援策を実践する。	①多文化共生推進員と連携した学習支援を進める等、日本語活用能力に課題がある生徒の学習効果を高める。 ②個に応じた学習指導について、教員間の情報共有を行い、よりきめ細かく効率的な学習支援を継続して行う。その際、観点別学習評価を生かす。	①多文化共生推進員や学習支援員を活用し、日本語活用能力等に課題のある生徒への支援が継続的にできたか。 ②授業アンケート「授業の内容や先生の話を理解できたか」が 80％を超えているか。また、観点別学習評価を生徒の指導に生かしたか。				
2	基本的生活習慣や、コミュニケーション能力に課題のある生徒もいるが、既に社会人として立派に独立している生徒もいるなど、実に多彩である。家庭環境や生活状況等を踏まえながら家庭との連携と生徒指導の充実を図る必要がある。 また、引き続き、油断することなく感染症拡大防止による校内衛生管理を継続して徹底し、安心安全な学校環境を保つことが必要である。	生徒同士のつながりも生かしながら、家庭と連携協力した生徒指導、基本的生活習慣の確立に取り組む。	①登校時の声掛け指導や個人面談を行う、また、家庭連絡を密に行い、その結果を教職員が情報共有することで、より一層生徒理解を深める。 ②授業への出席率を向上させ、授業への取り組みを指導することにより、基本的生活習慣を身につけさせる。 ③スクールカウンセラーを活用した教育相談の充実や、外部機関との協力により、生徒によりよく生きるための力を身につけさせる。	①教員による登校時の出迎えと挨拶指導が継続できたか。面談や家庭連絡が密にできたか。また、その結果を教職員で共有したか。 ②年度末での欠課時数超過による原級留置をなくせたか。 ③スクールカウンセラーを活用した教育相談や外部機関と協力した対応や講演会を実施できたか。				
		感染症対策に必要な対策の徹底を継続して行い、安心安全な学校環境を保つ。	①登校時の手洗い、マスクの正しい着用、給食時の改めての手洗いや黙食等のマナーを徹底し衛生管理を行う。 ②授業の特性に応じた感染症拡大防止に努め、学習を確実に保障する。	①感染症対策に慣れることなく徹底できたか。 ②感染症対策を施しながら授業を行い、基礎基本の習得を保障できたか。				
3	進路意識についても、生徒個々の意識の差や興味の幅広さが顕著である実情を踏まえ、個々に応じた進路意識の向上と、学校としての進路意識の高揚を図る必要がある。その先に、進路決定を諦めさせない指導を徹底し、より一層、人間性・社会性の育成に取り組む必要がある。 また、定時制の取組を中学生や保護者及び地域社会へ向けて積極的に発信し、理解を深めることで、本校で力を発揮できる生徒をより多く集める必要がある。	一人一人の状況に応じた進路意識向上と、進路選択にむけた支援に取り組む。	①就職支援アドバイザーなど県の事業を活用した進路実現のための支援を継続して実施する。 ②ハローワークや地域の機関と連携し、個々の適性を踏まえた適切な進路選択と進路意識の向上に向けた支援を実施する。	①４学年生徒の卒業と進路が決定できたか。また、３年生にも進路意識を高める取組を実施することができたか。 ②学校アンケート「進路に係る情報収集をしているか」が 70%を超えたか。				
		定時制の取組をＨＰで定期的に紹介し、中学生や保護者及び地域社会への広報を継続する。	①ＨＰに学校の取組や生徒の様子を定期的に発信する。 ②リーフレットを発行し、中学生や地域に本校の良さや特徴を伝える。既就労者への生徒募集広報を行う。	①ＨＰは行事ごとに更新しているか。 ②リーフレットを発行し、中学校に配布したか。地域広報誌に生徒募集を掲載したか。				